

一般社団法人



木工作家(大阪府) 甲斐幸太郎 作品展 日本工芸会正会員

10月1日~10月20日

彩遊の号 No.50

(一社)愛海詩
会報

令和6年9月20日発行

編集発行人/一般社団法人愛海詩
佐藤 睦子

〒064-0821
札幌市中央区北1条西28丁目2番17号
TEL・FAX/(011)613-1112

WEBSITE
https://i-emishi.com/
E-mail:issya@emishi-s.com



制作中の甲斐幸太郎氏

「(一社)愛海詩二年目の秋」

爽やかな空気に秋の気配を感じつつ、澄み渡る月の光や遠近の虫の声、ひと雨毎に秋は、その深まりを纏うかのようです。

(二社)愛海詩の秋は一年目の関を越えて、また新たに体制を整えて進んでおります。この創立一年半は孤独の淵を見るような中で、さまざまな波が寄せて来るような気にもなっておりまして。しかし、それは実は、孤独ではなく愛海詩は多くの方々のお支えの中にある...ということを改めて実感もしたのです。このように筆を進めておりまして、愛海詩の会員を始め、スタッフの愛海詩への思い、心を寄せて下さることに感謝しつつ...でございます。

「北海道の文化的働きに貢献する。」職人作家の技と心を応援する。「生活が心豊かになるよう、佳き出会いと学びを大切に。」この三つの灯は、常に胸の内に持ち、迷うことなく、よく見、よく聞き、進んで参ります。

私は人生のほとんどを愛海詩と共に歩んで参りました。必然的に愛海詩によって、もたらされた「出会い」が多いと言えます。大切な、嬉しい出会いが多いのです。今回の作品展、甲斐幸太郎氏との出会いも、愛海詩にとっては少し特別です。昨年の秋は甲斐氏の原点を知りたくて、師である藤崎一正氏を大阪に訪ねました。藤崎氏は人間国宝、故・黒田辰秋の一番弟子で名工です。甲斐氏の師は、私の思った通りの人でございました。木工芸に命がけで取り組まれ、何事も忽せにしないようにお見受けしました。奥様も素敵なお方でした。私は帰りに、甲斐氏という、日本の木工界の宝を育てて下さってありがとうございます...と心の中心で申し上げ、握手をして別れました。

ハートTOハート、ハンドTOハンド、心から心へ、手から手へ。心意を通わせつつ、愛海詩のバトンが繋がって行きます。その、北海道の灯を、みなさんと共に照らして行きたいと思う秋の直中です。

(佐藤 睦子)

木工作家、甲斐幸太郎氏との出合いも今年で6年目の秋を迎えます。そして愛海詩で、あるいは北海道で3回目の作品展です。美術作品から普段使いの作品、お椀やスプーン、お皿、小鉢など約30点をご紹介します。一つ一つ、こつこつ丁寧に削られた作品、それは長く使って生活と共に愛でられ、育って行く作品、唯一無二の逸品の数々です。私は6年前、NHKの番組「日曜美術館」で甲斐氏を知りました。そこで、仕事振りや文化育上げになり、日本伝統工芸展文部科学大臣賞を受賞された「桧拭漆三足器」がうつつし出され、お人柄と技に感動したのを今でも覚えております。そして大阪でお目にかかり、ご縁が繋がりました。それから甲斐氏は歩みを止めることなく、作品にて新しい感動を生み出し続けております。今回の作品展では(一社)愛海詩でしかない、オリジナルの作品もございます。本物と出合う好機です。沢山のの方々、本人、作品とも出合っていたら幸いです。作品展、ご高覧下さいませ。

お知らせ

10月10日(木)、午前11時から約1時間、FMラジオカロス札幌78.1MHz「木曜而今」の番組に甲斐幸太郎氏が出演されます。お人柄、技、共に申し分ない作家です。是非、お聞き下さいませ。10月12日(土)午前11時から再放送(リスンラジオのアプリでも聞くことができます)

略歴

- 1976年 愛知県名古屋市に生まれる
- 2003年 京都伝統工芸専門学校 木工専攻 卒業
- 2004年 第33回日本伝統工芸近畿展 初入選
木漆工芸作家藤崎一正氏に師事
- 2007年 大阪工芸展 大阪府知事賞
- 2010年 第57回日本伝統工芸展 初入選(以降入選12回)
- 2012年 大阪市内にて独立 制作を始める
- 2014年 第19回MOA岡田茂吉賞 新人賞
- 2015年 第15回伝統工芸木竹展 東京都教育委員会賞
- 2016年 第45回日本伝統工芸近畿展 近畿賞
- 2019年 第66回日本伝統工芸展 文部科学大臣賞
「桧拭漆三足器」文化育上げ
NHK番組「日曜美術館」で仕事振りを紹介される
- 2020年 第49回日本伝統工芸近畿展 大阪府教育委員会賞
- 2021年 第68回日本伝統工芸展 日本工芸会保持者賞
- 2024年 第53回日本伝統工芸近畿展 日本工芸会近畿支部長賞
- 現在 日本工芸会正会員

木工作家・甲斐幸太郎氏を囲む会

甲斐幸太郎氏は10月10日(木)、11日(金)の13時から18時まで、12日(土)は15時から愛海詩におられます。ぜひ、作家との交流もして下さいませ。

囲む会は(一社)愛海詩2Fで開催します。どなたでも参加できる楽しく、有意義な会です。席数が限られておりますので、早目の予約、お待ち申し上げます。

日時 令和6年10月10日(木) 両日共 15:00~16:30
令和6年10月11日(金) 先着5名様

チケット代金 4,000円(お茶、お土産、レクチャー付)

「ご挨拶」作品展によせて

この度はギャラリー「愛海詩」様で三回目の個展を開いていただき、心より感謝申し上げます。作品を発表する機会をいただけるのは作家にとってこの上ない喜びであり、こうして展示会を重ねていただけることをとても有難く思います。

木工を志してから二十四年になります。サラリーマンの家庭に育ち幼少の頃は美術・工芸に全く関心が無かった私ですが、これまで木工を続けることができたのは、ひとえに良き師、良き友、良き理解者に恵まれたからに他なりません。特に木漆工芸作家・藤崎一正先生の工房で学ばせていただいたことは本本当に幸運なことでした。伝統工芸の専門学校を卒業した後、弟子入りのご縁をいただいたとき私は二十八歳で手業を身につけるには遅いスタートでしたが、基礎から木工技術を教わり、日々先生の仕事に触れることで造形についても学ぶことができました。不器用で覚えの悪い弟子でしたが六年間ご指導をいただいたりして、先生の教えを支えに仕事をしています。

さて、日本の国土は三分の二を森林が占め、古来より人々は木の道具と暮らしてきました。建築、農具、家具、器などあらゆる分野で木が用いられ、綿々と木の文化が受け継がれる中で様々な木工技術が発達しました。私はその中で最も原始的で素朴な技法「削物」に魅力を感じ制作をしています。「削物」はノミ、鉋、小刀などの刃物を用いて木の塊から作品を削り出す技法で、作り手の思いを自由な造形で表現することができます。彫刻的要素が強く、椀や皿、箱といった日常の器物も彫刻作品を仕上げるつもりで制作しています。

木には生命があり、心をこめて仕事をすると応えてくれます。手間はかかるますが一つ一つ手で削って仕上げること、木の持つ力を活かしたいと思っております。作品を通して木の息吹を感じていただけたら嬉しく思います。どうぞご高覧ください。



桜拭漆匙
(長さ19.7cm×幅4cm)

使いごこちが良いスプーンであることは間違いありません。



たも削抜き二段重箱
(幅25.2cm×奥行18cm×高さ9.5cm)

一つの木を削り抜いて作り、全体の木目が流れるように佇みます。永く楽しみ、伝えて行きたい作品です。



たも拭漆塗分盛器「海へ」
(幅58.2cm×奥行24.2cm×高さ10.7cm)

ささ舟の海への出航のイメージ、研ぎ澄まされたフォルムに木目の美しさが躍動する。



檮祭器
(幅40cm×奥行16cm×高さ5.7cm)

石川県の我谷盆の復活による作品。一本の線が持つ力を丁寧に繊細に彫り進めた逸品です。



花器「灯」(材・台座は神代檜と朴 花入れは桜)
(幅20cm×高さ28cm)

セパレートになっている一輪差しです。花が灯りがともるように見る人の心を相照らしてくれます。



朴拭漆片口と楠白漆貝形盃
(片口:幅15.2cm×奥行8.5cm×高さ8.8cm)

手からも伝わる流れるようなライン、こんな器で一献いただくと秋の夜長の時も豊かに満ち足りて行きます。



黒柿と朴の小壺(材・蓋が黒柿、身は朴で黒の拭漆仕上げ)
(幅6.2cm×高さ5.5cm)

黒柿の艶が際立つ。手中の宝物としても愛でたい。八角のラインが1削り、1削りの賜ものとして静かに寄り添うかのようです。



桜造笹の葉皿
(長さ35.2cm×奥行9cm×高さ1.5cm)

シャープでクール。この笹の葉皿にどんなお料理をのせても物語が始まります。

一般社団法人愛海詩 特別企画

「Mo...佳い会」第7回目

令和6年11月30日(土) 11:30~15:00
文化と出会いの灯をともし

- 講師 伊藤新吉氏(渡島信金理事長・森商工会議所会頭)
- 講師 「渡島信金114年・北海道の魅力と可能性」
- 会場 レストラン コートドール 特別メニューのフレンチフルコース(地下鉄円山公園駅 徒歩5分)
- 参加費 18,000円(愛海詩のセレクト作品、ワンドリンク付) 愛海詩会員の割引有り(先着25名)

文化と経済は両輪の輪、と考えます。今年の「Mo...佳い会」は、伊藤新吉氏のお話を聞きます。働かないお人柄、核心をついたお話、その魅力は無限です。参加者皆様の交流、美味しいお料理、有意義な時間をお届けする企画です。

◆上記お問い合わせ等 (一社)愛海詩まで
TEL/FAX:011-613-1112 E-mail:issya@emishi-s.com
オープン:11:30~18:00(月曜日休)